

2010.11.1

Contents

住まいの明かりを考える

- HABITAな風景
- 住まいは巣まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメード館403
- 住まい文化の栄
- 住健住康
- Green Earth
- Office HABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM



ティータイム

ついこの前までは、日影ばかり探しでいたのに、ぽかぽかの光が、恋しい季節になりました。ついついアドから入ってくる光のあるところへ移動してしまいます。ティータイムを優雅にしてみたくて、ちょっと気が早いけれど、ティーコジーも出してみました。

紅茶が冷めないように、帽子のようにすっぽり被って、温度を保ちます。友が来て、ゆっくり、のんびり、紅茶を飲みながら日の向きが動くのを愉しんでいます。日が暮れて、家族が帰ってくるまでの、長いようで短い、私のティータイムです。

Weekly HABITA 038

住まいの中の明かりと暮らし

100年前の暮らしから考えると、想像ができないくらいに変化していることがあります。住まいの中にあらゆる明かりも、そのひとつです。白熱灯から蛍光灯に変わってきた照明器具が、さすがにLEDや有機ELなどとなっています。反面、「螢の光、窓の空」と昔の明かりの風景を表す言葉をまだ残しています。その間に基礎科学も進化して、明かりの要素である光の成分も分析が進みました。明かりは、暮らしの中で人の感情とも密接に関係しています。明かりとして使いこなすための知恵を学んで、住まいの照明計画を進めてみましょう。

光について分かったこと

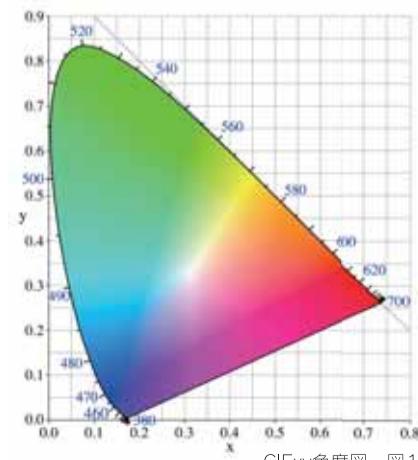
色の三原色を聞かれれば、赤・青・黄と答えます。これらの色を混ぜ合わせると、どのような色でも再現ができます。これに対して光の三原色はRGBと言われ、レッド・グリーン・ブルーです。私たちがテレビを見る時には、このRGBの三原色で表現された光を見て色を感じています。

黄色がグリーンに変わっただけのようになりますが、実はこの二つの原色の赤とレッド、青とブルーは同じ色ではありません。

物の色に色相・明度・彩度の3つの要素があるように、光を検証する際にもい

くつかの要素があります。大きくは光の強度と波長で分けられます。

光の強度はカンデラやルーメン、ルクスという単位で表されますが、概念的には似ていて光の束と考えて



三澤 千代治の
住まいは巣まい

個室は「子失、

人間は本来、生まれてきたときは、動物です。動物である赤ちゃんを一人前の人間にするのがしつけです。しつけは漢字で「躾」であり、身を美しくする、と書くわけで、その言葉からも、しつけの大しさが伝わってきます。

人間の能力、性格は幼少期に形成されるといわれます。幼少期にどういう環境で育ったかが、一生を左右するほどの影響力を持ちます。

大きな壁に本物の良質の絵画を飾ることは、それを見て育つ子どもの芸術的な才能を開花させるために、良い影響があるといいます。

日曜大工の道具が手近なところにいつもあるって、父親が子どもと一緒に日曜大工で何かつくって、作業するのもいいでしょう。

庭には花が咲き時期がくれば枯れ、また芽が出て蝶が飛び、虫が動いている、といった自然のサイクルに日常的に触れることからも、子どもはいろいろなことを学びます。

書棚があって、本がたくさん並んだ空間なども大事でしょう。

子どもの才能を伸ばすようなさまざまな仕組み、仕掛けを家の中に用意することも、しつけのひとつです。

動物から人間へと変身していく名作がいくつもあります。ジャングルの猿やライオン、象たちに育てられたターザンは人間社会に触れて「人、に目覚めています。

(MISAWA・international 社長)

おけば良いでしょう。

波長を代表するのは虹の7色で、可視光線では400nm弱から800nm前後のスペクトルとして分光されます。このスペクトルの中に、前述の光の三原色があります。

三原色による色の表示については、国際照明委員会(CIE)が策定しCIExy色度図と呼ばれています。(図1)これが理論的なすべての色の分布です。

この色度図の中には、色温度の分布を線分で表示することができます。それは黒体輻射の色軌跡と呼ばれ、ケルビンという温度の単位で呼ばれます。温度が高まるほどに、赤い色から、白、青へと色が変化します。木が燃える光の色と、ガスが燃える光の色が違うのは色温度から来ています。このことから逆に色味を色温度で表現することもあります。

しかし残念ながら、物理的に光を測定できても、私たちの感受性とはもっと複雑な関係になります。たとえば紫外線や赤外線は私たちの目には見えません。それは同じ光の強さがあつても、波長によって感じ方が違うと言うことです。これを比視感度と言い、明るいところでは555nmの波長をピークとしています。虹を見た時に、真中の色が濃く見えるのはこのためです。

住まいの明かりを考える



明かりとしての光

私たちが実際に物を見ているのは、光源から発せられて反射した光の強さとスペクトラルを感受して、色や形を総合的に判断しています。ですから光の量が少なくなると、反射の光も少なくなり色はぼけてきます。

また輝度対比と言い、周囲や背景の光の強さの差によっても見え方は変わります。さらに演色評価という、どれだけ自然光に近い色になるかを数値化した指標もあります。

日常的に物を見るためには、光源である照明器具のこれらの性能をしっかりと吟味しておかなければなりません。照明を選ぶと言うのは、単に器具の選び方ではなく、色を演出する光のコーディネートなのです。中でも演色性の高さというのは、欠かせない要素です。他に光量や色温度などの要素を組み合わせて、暮らしのシーンにかかる光のコーディネート例を簡単な表にしてみました。

たとえば作業のシーンでは、なによりも十分な光量が必要です。感情よりも冷静さを必要とするため、色温度は高めの設定にします。作業をする場合は暗い部分ができないようにしますが、部屋全体としては作業部に光を集中させることで、コンセントレーションを高めることもあります。

食事のシーンでは、食べ物をおいしく見せることに集中します。色温度は比較的低めに設定し暖かみを出すと同時に、食べ物をおいしそうに見せるためには最高の演色性が求められます。しかしある程度の輝度対比を許容しておかないと、料理を盛る器の種類

シーン	光量	演色性	色温度	輝度比	
作業をする	○	中	高	低	文明
食事を楽しむ	○	最高	中	有	
くつろぐ	△	中	低	低	文化
映画を見る	×	-	-	低	文化
会話をする	○	中	中	有	文明
お酒を嗜む	△	高	低	低	文化
就寝する	×	-	-	無	



まで限定しかねないことになります。

くつろぎのシーンでは、光量は抑え目です。色温度も暖かみのある低めの温度に設定します。こだわりの演出には演色性の高いスポットライトでメリハリをつけても良いでしょう。

光の道具と明かりの文化

他にも様々なシーンが考えられますが、設置する照明器具でこれらのコントロールができるようにしなければなりません。電気による一般家庭の照明は当初白熱灯によって普及し、その後蛍光灯が併用されました。これらの電灯にはそれぞれの光の特性があるので、器具を組み合わせてコーディネートします。たとえばスポットライトのように、光を絞り込んであるナローランプを駆使するとか、部屋の明るさを求めるのであれば比較的大きな光源となる蛍光灯を使うなどです。

近年LEDの普及に伴い、光の強度や演色性・色温度などの光の種類も豊富になりました。しかも発光体が小さいので組み合わせることが容易です。単なる明るさばかりではなく、光のコーディネートが可能になりました。さらに環境に配慮した有機ELと言った新しい光も生み出されようとしています。

反面、文明的な光の科学技術の進歩だけではなく、文化的に明かりを考えることも必要です。私たちの暮らしというのは、長い歴史の中

から生まれて引き継がれてきました。明かりという面で捉えても、心理的には大きな影響を受けているはずです。

たとえば、明かりの光源の形と位置に明かりの文化があります。

単純に考えて人類が火を扱い始めたのが照明の始まりであると想像すれば、床からの光であり、炎の大きさ



の光源がありました。その時代は長く続き、西洋で暖炉が根強く残っているのも、日本の団炉裏に憧れを抱くのもその名残ではないでしょうか。さらに炎は立ちのぼるので、天井には付けられず、松明のように壁につけた照明の時代が長くありました。オイルランプが生まれて初めて、天井に明かりがついたと考えて良いでしょう。

一方、日本でも団炉裏の他には松明やかがり火がありました。ランプの代わりに行灯が使われましたが、置かれたのは床でした。自然の光は天から注ぎ、人口の明かりは床から取つたのです。さらに小さな光源からの光を行灯のように、紙を通して拡散することで面光源としていました。これは昼光も同様で、障子紙によって外の光を拡散して室内全体に届けました。この意味では、明かり障子はまさに照明器具だったのです。

これからの暮らしの明かり

現代の一般的な住宅の照明は、白熱灯や蛍光灯などの器具の発明と進歩によって大きく変わってきました。昼

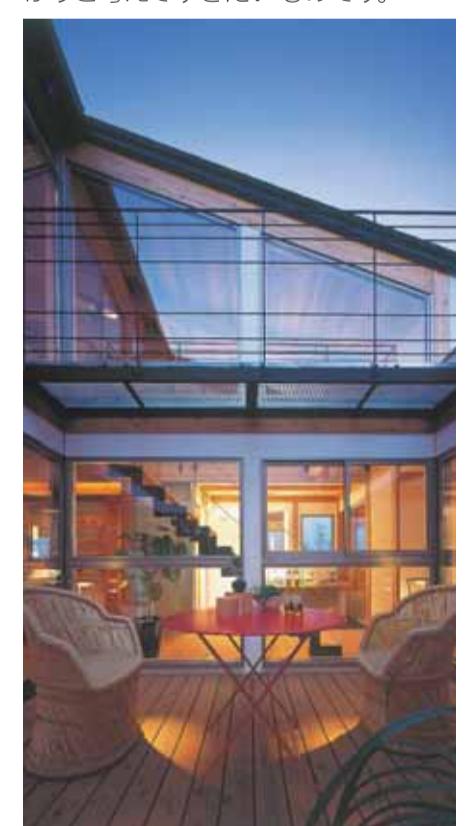
間のように上からの照明が中心となり、ダウンライトのような点光源も普及しています。こうした傾向は特に日本に顕著です。その他の国では、壁掛けのブラケットや置き型のスタンドライトを上手に使いこなし、照明文化としています。ダウンライトのように光源が直接視界に入ってくるような輝度対比の大きい照明を嫌う人もいます。

敢えて言えば、天井からの光や、点光源による光は文明的な明かりであり、壁や床からの光、面光源の光は歴史のある文化的な明かりなのです。

照明器具の技術が文明的に進化したこととは、極めて喜ばしいことです。反面、一般的な家庭の消費エネルギーの3分の1が照明や家電に使われていると言われています。省エネルギー性が高まっていることも技術の進歩のおかげです。そしてさまざまな光の種類も私たちは手に入れることができます。文明の利器としての照明器具をいかに使いこなしてゆくかが、これから課題です。

そのためには、光の性質だけではなく、光源の形や位置を含めて、的確な明かりを配置し豊かな暮らしを描くこと。つまり明かり文化をしっかりと意識することが大切です。天井からの色温度の高い光を中心とした仕事場の照明と、家庭の明かりは同じものではないはずです。

「200年住宅」を考えることは、住まい文化を考えることでもあります。もっと暖炉や団炉裏や行灯のように、床からの明かりを楽しみ、壁や天井に反射した面の明かりを使いこなす。現代の文明の機器を駆使しながら、暮らしにこれから明かり文化をしっかりと考えてゆきたいものです。



時を越えたマドリ

今は子ども部屋が必要でも、20年先には分からな
い。高齢化した自分の部屋

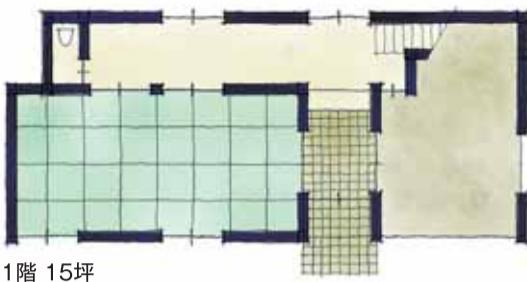
が必要かもしれない。

昔の和室の続き間は、未来の可能性をも包み込む。その時・時に合わせて変化して行けば良い。

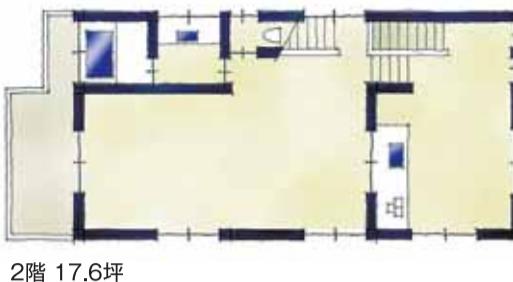
ガレージが家の一部になり、その上の

段差が家族の寛ぎの時間を変える。

広がりやつながりを感じさせない空間は無い。いつの時代に住んでいるのかも、忘れてしまう。だが、間違いなくどこかの時代の日本を現しているマドリである。



1階 15坪



2階 17.6坪



DAISHU HABITA



403 住まいの
オーダーメード館

モルタル彫刻

エイジングウォール

高価な石材やブロック、枕木などはいつさい使わず、全てセメン

トの特殊技術(モルタル造形)で表現した、壁や塀のことをエイジングウォールと言います。既存ブロック塀や壁がモルタル彫刻で美しく、想像を超えて変身できます。デザイン、サイズ、カラーも豊富で、イメージをそのままに表現できるので、壁や塀だけでなくプランターや手洗いなどあらゆる物がつくられています。

本物の大理石、古木、アンティークレンガ等を使うと費用と時間がかかりますが、エイジングウォールなら、何の変哲もない庭の壁面を楽しい空間に変化させることができます。ガーデンファニチャーがいつそう引き立つ庭になるでしょう。



住まい文化の栄

さるの一

建築の世界に動物の名前を探すと、昔の人の思いがわかります。干支を追って調べてきましたが「ひつじ」の名はなかなか見あたりません。一方、「さる」は人にも似ていて身近な存在であったのか、古来から使われている言葉が多く見かけられます。その使われ方も、仕草や形状・伝承まで幅広く残されています。

もっとも身近なのは、一般的に使われている梯子のことを「さるばしご」と言います。2本の縦木に桟を渡したことによって、桟梯子が訛って呼ばれるようになった説もありますが、登りにくいところにもこの梯子を掛けねば、猿のようになると登れるイ



メージが湧いてきます。きっとそんな思いがあつたに違いありません。

梯子を掛けるように、木造の本柱に斜めに掛けられた控え柱のことを猿控えと呼びます。野外の看板などに、よく見られるものです。野生の猿でもやってきたら、やはり登り出しそうな気がします。本来は猿のためにつくっているものではないのですが。

次に猿の顔を想像してみてください。人間の顔よりも猿の顔は口が大きく、頬の肉が落ちています。この顔をイメージしてつけられている名前があります。和室の天井に使われている竿縁に、良く使われているのが猿顎面です。一般的には45°に切られることの多い面を、断面形状がまさに猿の顎が落ちたような角度で切った面をこのように呼びます。昔の人の想像力のたくましさと、ネームイングの巧みさに感心してしまいます。

同じように頂点を上にした五角形を昔の人は猿の顔のようにイメージしたのでしょう。西遊記の孫悟空を描けば大概似たような形になります。この下半分を切り落とし、残った扁平の五角形に似た形を見つけたら、それを猿頭と呼びます。橋の欄干や手摺りの一番上に使われている形のものです。昔の人たちは猿に対しては、愛嬌を感じていたのでしょうか。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

換気のコツ

風の流れは目に見えません。それだけに、ただ窓を開けただけで換気をした気になっていることが多いのです。せっかく換気をするのなら、部屋の中の空気と、外の新鮮な空気をしっかりと入れ替えておきたいですね。

身近なものを使って、風の流れを可視化する小道具があります。それは「ゴム風船」です。膨らませたゴム風船を、家中に適当に散らばせます。そしてその状態で、半日生活しましょう。その間、留守にはせずに、ドアの開け閉め、掃除、換気など、家族の普通の動きがあるようにします。ただし、できるだけ風船を故意に動かしたり、邪魔



だからと蹴つ飛ばしたりしないようにしてください。

さて、半日経って、風船が一番多く発見される窓のある場所……そこが、住まいのなかの「風下」。「空気の出口」になります。その場所に出口となるような窓がない場合、そこはいわゆる「吹き溜まり」であることが分かります。

つまり、住まいの中で「ホコリの巣」に、もっとなりやすいポイントであるということです。

換気をする際には、暖房器具を使っている部屋の窓だけを開いて、換気していることが多いのではないでしょか。ポイントは、その際必ず「空気の出口」となる開口部も開くようにすることです。

一部屋に2箇所以上の窓等がある場合は2箇所とも開きましょう。マンションなどで1箇所しか窓のない場合は、ドアを開けた状態で住まいの風下にあつた窓(空気の出口)も開いて風を通します。窓もないのに風船がたまる「吹き溜まり」は、日ごろの掃除でも実は手を付けづらい場所にあつたりします。それだけに、汚れが蓄積し、ホコリの巣のみならずダニの巣窟になっていることもあります。

風の流れがチェックでき、ホコリの巣も見つけることができる簡単な方法なので、ぜひ試してみてください。正しい換気と掃除で家族の健康を守りましょう。

世界で初めて! 水ガラスコーティング

無機水性塗料 パールX

Pearl-X

美しい木材を持続させる

シロアリ
ノックアウト

細菌
ノックアウト

カビ
ノックアウト

OKISHIMA
CORPORATION

東京都武蔵野市中町3-1-2
TEL:0422-52-0909



株式会社矢島

本社/テ184-8502 東京都小金井市本町4-1-3 TEL:042-381-1431 FAX:042-381-2484

WHAT'S THE BEST KITCHEN?

理想のキッチンってなんでしょう？

元気な身体をつくるおいしいごはん
毎日毎日、キッチンからうまれます。
おいしいごはん、それは心のこもったごはんです。
ごはんを囲んで家族の心が集まる。
YAJIMAはそんなキッチンの理想を考えました。



日本の森林は今

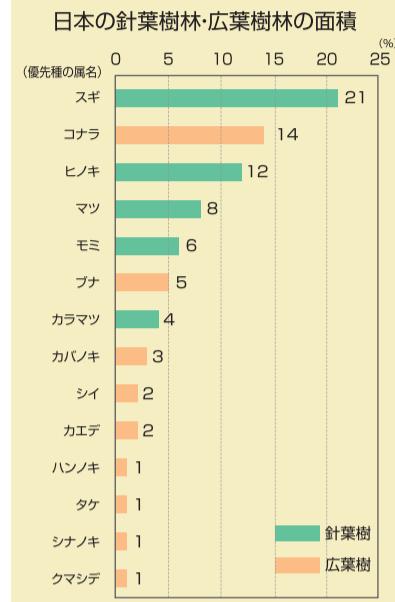
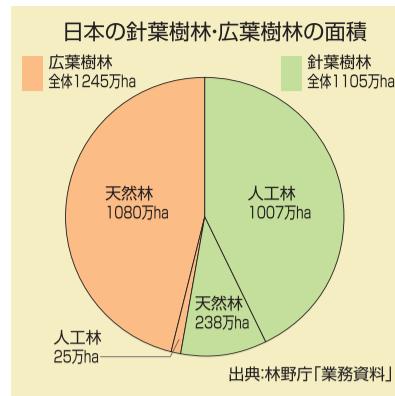
日本の森林を構成する樹の種類で分類すると、桜、椎、樺などのように、幅の広い葉を持つ広葉樹林と、マツ、スギのように細く長い葉を持つ針葉樹林に分けられます。

日本の広葉樹林と針葉樹林の面積は、ほぼ同じ広さですが、森林の成立の過程は大きく違います。天然林では、主要樹種は広葉樹で、80%以上を占めます。人工林は、スギ、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹が主要樹種で、全体の90%以上を占めています。これは、人工林が木材生産が目的で、生長が速く、建築材等に向いているからです。

それでは、今、日本の森林には、どんな樹種がおおいのでしょうか。平成11年～15年の森林資源モニタリング調査から、紹介します。スギが1位で全体の21%も占め、ヒノキとカラマツも上位にありますことがわかります。

HABITAでは、今、日本に多くある、人工林の針葉樹のスギ、ヒノキ、カラマツを構造体として使っていきます。

最近では国産材の活用に弾みがつき、住生活基本法、長期優良住宅では地域材の活用がはつきりとうたわれています。



HABITA アッシュホーム

石川県七尾駅から車で10分。能登島を臨み、海沿いの道を走らせるとアッシュホームの事務所兼モデルが見えてきた。

形はHABITAの出居民家タイ



プ。「一番HABITAらしい形だと私は思うんです。」と水口社長。大断面の迫力を感じる玄関、大きすぎず、高すぎないが心地よい開放感のある吹き抜け。長持ちする構造、長持ちさせようと思うデザインがお住民家には詰まっているという。

先日開催したイベントでは3日間で80組を超えるお客様で賑わった。お客様の感嘆の声にとても手ごたえを感じたそうだ。地元を歩けば皆に挨拶を欠かさない明るく元気な社長だ

が、数年前には狭心症で倒れた経緯があるという。「一度死んだ身。今はグリコのおまけみたいなもんです。」と笑顔の社長。

だが家づくりにかける情熱は全く死んでいない。次はHABITA漁師町モデルを造りたいと構想を語る社長の顔は昔にも増して輝いているに違いない。

住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

[HABITA/TV](#)

株式会社アッシュホームの詳しい内容はHABITA/TVの8ch「HABITAオフィス紹介」で紹介しています。



www.habita200.jp/



第38号 2010年11月1日 発行:MISAWA international株式会社 〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1

100円



ガーデンの暮らし

部屋の基本は床があって、壁があります。そこに光、水、緑の交わりがあります。風が流れ、季節の移ろいが



感じられる空間が、暮らしの延長線上の屋外の部屋です。すなわち5th Roomの概念ではないかと思います。

リビングの延長線上の部屋についてまず第一に大事なことは、出来るだけ外の床面との段差をなくすこと。そして、ひさしの部分であるポーチガーデンやテラスが必要ということです。床になるデッキは、ひとつの部屋として広くするといろんなテクニックが使えます。デッキに切込みを入れて、大きな落葉系の木を入れると、夏は

古民家と呼ばれる昔の家は、みんなしっかり乾燥した木だから今も残っているんだね。君の家は、木の家？その木はちゃんと乾燥した木？涼しく、冬は木漏れ日で日光浴もでき快適な暮らしにつながります。

さらに収納。最初のレイアウトのときから床下収納を計画するとしても便利です。引き出し式にするのもよし、また必要なときに床面を開ける方式もよし、時にはコーナーにベンチを設け、その下をすべて収納として使う方法もよいでしょう。

今、モダンジャパネスクが流行してきました。このデッキのリビングの部分を和の部屋と想定してみてください。クラシックなローテーブルを配置すると、お茶を点てたくなる空間になります。観月とは単に月を見に行くのではなく、月

がのぼるのを待つ、いわば迎月の世界。低い月を眺めるためのデッキの間の空間や床の高低のレイアウトが大事になります。

洋風の間では、リゾートリビングスタイルとして、ゆったりと座れる家具をコーナーにし、調理するためのレンジや調理台などを配し、目隠しとしての壁面をしっかりと立てて、光のレイアウトをすれば屋外のリビングの間が出来上がりります。忙しい日々を送る中、その空間は自然との交わりの空間として、風を感じ、鳥の声を聞き、光とふれあい、家族とのコミュニケーションの場になります。暮らしの快適さ、リラックスを身近に得られるエデン…すなわち囲われた楽園(ガウ・エデン)がガーデンの世界であり、すばらしい空間を作れるのではないかと思います。



「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ! [タカショ](#)



やすらぎのある空間づくり
株式会社タカショ

和歌山県海南市南赤坂20-1 ☎642-0017

お客様サービスセンター 0120-51-4128

5th ROOM.
L+D+R+B & G(五番目の部屋)